

授業短縮、運動会延期、校長室を開放：

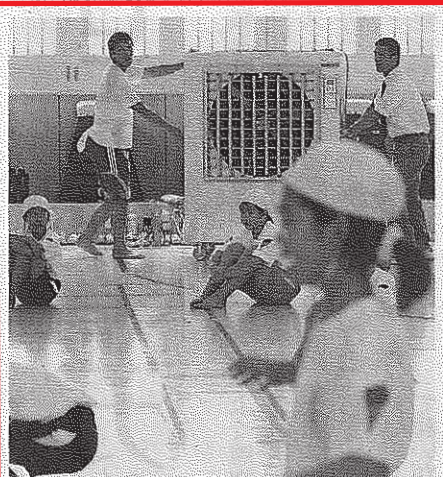
新学期が始まった学校現場で、猛暑のため授業時間を縮めたり、運動会を延期する動きが起きている。うだるような教室やグラウンドで、子供の体調維持を優先した措置だ。エアコン付きの校長室を開放して熱中症予防を図る学校もあり、体調管理に四苦八苦だ。

1割のみ 冷房設置

学校の冷房設備が少ない東京都杉並区では38度に達する教室もあるといい、授業を6時限から4時限に縮める中学が現れた。6日まで2日間短縮した杉森中の風見章校長は「夏休み明けに午後まで授業をしたが、あまりに暑い。子供の体調が第

小中学校 猛暑で四苦八苦

「一」と説明した。やはり2日間短縮した井荻中の中嶋隆雄校長は「インフルエンザや台風では経験があるが、暑さでは初めて」と苦悶をにじませた。横浜市立中山中は、夏休み明けの8月27日から当面、授業を1コマ50分から45分に短縮している。前期の期末テストが近く授業短縮は避けたいが「風通しの工夫で対応できるレベルではない」に延期した。冷房のある



熱中症対策として体育館に設置された大型冷風機—東京都荒川区の汐入東小学校で6日、佐々木順一撮影

校長室や特別教室を開放し休息を呼び掛けているが、体調不良を訴える児童が連日のように出ているという。9月末の運動会本番を控え、東京都荒川区立汐入東小は大型冷風機(高さ約1・5m、幅約1・1m)2台を借り入れ、体育館に設置。水の気化熱を利用し、涼風を送り出す仕組みだ。

群馬県館林市は8月、約1000万円かけて小中学校や幼稚園など全31施設に冷水機や製水器を配備した。毎年高温を記録する地域だが「例年とは暑さのレベルが違う」と市教委担当者。小中学校の普通教室にエアコンはないが、来年度以降の設置を検討する。
【田村佳子、五味香織】